

第 33 回 渋谷健一奨励賞

本賞は、渋谷健一先生（元本学理事長）の本学創立百周年を記念した篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、本学に在学する学生のうち、学術、文化、体育等の活動を通じて、卓越した成果を収めた者（団体を含む）を対象に授与するものです。

【学術・文化の分野（個人）】

柳 沢 直 己	総合政策学部 3年	米国ユタ州に在住する2人の日系人元収容者を取材したルポルタージュ「米国ユタ州の日系人収容所を訪ねて」が「第3回 ヤングリポーター・コンペティション」で「日本赤十字社賞」を受賞した。
佐 々 木 亮	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 物理学専攻 2年	今までに観測されたことのない規模の巨大恒星フレアにおいて彩層蒸発の証拠を掴んだという内容で、理化学研究所主催の「RIKEN Summer School 2019」の物理部門でポスター賞を受賞した。
綾 谷 陸 人	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻 2年	食品の鮮度保持を目的としたオゾンマイクロバブル含有氷の連続製造システムを開発し、1週間後でも十分な殺菌・消臭効果があることを明らかにした。多くの研究成果の外部公開も行い、それらの業績と修士論文の研究内容が評価され、日本冷凍空調学会年次大会「優秀講演賞」を受賞した。
佐 藤 翔	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻 2年	純水に両性界面活性剤を添加した混合液の場合、印加電圧、その極性とpHによって、混合液の平均過冷度を制御できることを明らかにした。多くの研究成果の外部公開も行い、それらの業績と修士論文の研究内容が評価され、「日本冷凍空調学会・会長奨励賞」を受賞した。
梅 原 友 理	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻 2年	高い氷充填率の氷スラリーの凝集力を、貯水時間と氷充填率を変えながら測定した結果、条件に係らず、貯水約8時間で最大凝集力になることを示した。多くの研究成果の外部公開も行い、それらの業績と修士論文の研究内容が評価され、「日本冷凍空調学会・学術賞（論文賞）」を受賞した。
保 井 拓 巳	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻 1年	CLAWAR 2019において、ロボットの産業発展を目指す国際学会に投稿された論文の中から優れた成果に対して贈られる「Industrial Robot Highly Commended Paper Award」を受賞した。
鈴 木 隆 二	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻 2年	CLAWAR 2019において、「CLAWAR Association Best Technical Paper Award」の「Third Prize」を受賞した。
萩 原 大 輝	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻 2年	2019年12月19日、第20回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2019）にて、蠕動運動型搬送装置の土砂搬送に関する研究成果を発表し、優秀講演賞を受賞した。
若 松 康 太	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻 1年	2019年12月19日、第20回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会（SI2019）にて、蠕動運動型捏和装置を用いた固体推進薬連続製造に関する研究成果を発表し、優秀講演賞を受賞した。またThe 16th IEEE Transdisciplinary-Oriented Workshop for Emerging Researchers では、Outstanding Poster Presentation Awardを受賞した。
本 木 耕 平	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻 2年	・自動車技術会 大学院研究奨励賞を受賞 ・修士研究を日本音響学会にて講演発表
金 森 公 平	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻 1年	官民協同の奨学金制度である「トビタテ！留学JAPAN日本代表プログラム」第11期生に採用され、米国コロンビア大学への研究留学を行い、所属研究室との共同研究体制を確立し、その成果は学会発表に至っている。またこの1年間、国内外での学会発表を積極的に行い、上位10%に贈られる優秀発表賞を2件受賞し、高い評価を得ている。
江 守 香 南 子	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻 2年	日本材料学会関東支部・理事会主催の2019年度学生研究交流会にて口頭発表を行い、優秀講演賞を受賞した。また研究成果は、ポリマー材料試験に関する国際学術誌に2編、筆頭著者として採択されており、国内外から高い評価を得ている。
木 下 怜 佳	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信 工学専攻 2年	VLD研究会より、「IEICE VLD Excellent Student Author Award for ASP-DAC」を受賞した。この賞は、ASP-DACに採択された日本人の中から特に優れた論文を筆頭著者として執筆した学生に贈られる賞である。
海 老 原 俊 輔	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 電気電子情報通信 工学専攻 2年	和楽器のリズムの特徴量と演奏支援について、JSSST2019の学生ポスターセッションで発表し、Student Poster Presentation Award を受賞した。
船 木 亮 祐	大学院理工学研究科 博士課程後期課程 応用化学専攻 3年	遺伝子組換えヒトヘモグロビンを遺伝子組換えヒト血清アルブミンで包み込んだ完全合成型人工酸素運搬体の調製に成功し、さらにアミノ酸を変異導入することにより、酸素結合能を調節することも明らかにした。その成果を、17th International Symposium on Blood Substitutes & Oxygen Therapeutics (XVII-ISBS) で発表し、Young Excellent Abstract 賞を受賞した。
菅 井 夏 穂	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻 2年	ドラッグデリバリーシステム、病原体捕捉剤、自己攪拌触媒の開発につながる成果を見出し、その内容を、International Conference on Materials Science and Engineering 2019 (Materials Oceania) (Melbourne, Australia) で発表し、ポスター賞を受賞した。
西 尾 謙 吾	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻 2年	国際会議「Euroclay2019」のポスター発表にて、「学術振興賞」を授与された。また、日本化学会「低次元系光機能材料研究会」第9回サマーセミナーにおいて、「エネルギー移動系による新規銅ナノ粒子発光現象」に関する研究成果を講演し、「優秀講演賞」を受賞した。
鳥 田 康 樹	大学院理工学研究科 博士課程前期課程 応用化学専攻 1年	トリアゾールカルベンを基本骨格とする2点活性化型ハロゲン結合供与体を合成し、その優れたルイス酸型の触媒作用の研究に成功を収めた。この化合物の有望性が評価され日本化学会の学生ポスター発表で「優秀ポスター発表賞」を受賞した。
鶴 見 周 摩	大学院文学研究科 博士課程後期課程 心理学専攻 1年	日本学術振興会特別研究員DC1であり、国際的な業績を著名な学術雑誌に発表し、2018年には発表賞、2019年には学生の中でのベストプレゼンターを日本基礎心理学会より受賞するなど卓越した成果を出している。

【体育の分野（団体）】

フェンシング部	学友会体育連盟	2019年度全日本学生フェンシング選手権大会 男子サーブル団体 優勝 第72回全日本フェンシング選手権大会 女子サーブル団体 優勝
剣道部	学友会体育連盟	第67回全日本学生剣道優勝大会 優勝
自転車競技部	学友会体育連盟	第75回全日本大学対抗選手権自転車競技大会 男子総合優勝（トラック・ロードの総合得点）

【体育の分野（個人）】

大 本 里 佳	法学部 4年 (水泳部)	第95回日本選手権水泳競技大会 女子50m自由形 優勝 ジャパンオープン2019 (50m) 女子50m・100m自由形 優勝 第95回日本学生選手権水泳競技大会 女子50m自由形 優勝
永 野 雄 大	法学部 3年 (フェンシング部)	第72回全日本フェンシング選手権大会(個人戦) 男子フルーレ 優勝 Asian U23 Fencing Championships 2019 U23 男子フルーレ・U23 チーム男子フルーレ 優勝
岩 田 優 奈	法学部 4年 (女子陸上競技部)	第23回アジア陸上競技選手権大会 4×400mリレー 3位 天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子400m 優勝
今 村 駿 介	法学部 4年 (自転車競技部)	第5回全日本学生選手権個人タイムトライアル自転車競技大会 優勝 第60回全日本学生選手権トラック自転車競技大会 ポイントレース 優勝 第88回全日本自転車競技選手権大会トラックレース 男子エリート チームパーシュート優勝
原 勇 輝	法学部 4年 (重量挙げ部)	第65回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会 81kg級 優勝 第74回国民体育大会 81kg級 優勝
佐 々 木 淳	経済学部 4年 (ラクロス部)	第9回APLUアジアパシフィック選手権大会 優勝
小 松 勇 斗	商学部 3年 (ラクロス部)	第9回APLUアジアパシフィック選手権大会 優勝

第 27 回 三重野康・高木友之助記念学術奨励賞

本賞は、三重野康元日本銀行総裁及び高木友之助元総長の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、学部学生のうち、経済、金融、政策等の諸科学の分野で、卓越した成果を取めた者に授与するものです。

高 瀬 智 司	経済学部 4年	本論文で、日本の輸入物価が為替相場の影響をどの程度受けているのか、という課題に実証的なアプローチで取り組んだ。この「為替相場が物価に与える影響」のことを、国際金融論の分野では「為替パススルー(exchange rate pass-through)」と呼ぶ。為替パススルーは、各国の為替政策がどのように物価に影響を与え、国民経済にどういった影響を与えるかを示す決定的な要素であり、政策的な示唆も極めて大きいことから、長く国際金融論の分野で研究されてきたトピックである。例えばアベノミクスに伴う急激な円安が、日本の貿易収支を改善させなかったことも、この為替パススルーが規模的に小さかったからであるというのが学会の共通認識にもなっている。今回当該学生は、1994年から2018年における日本の四半期輸入物価データを用いて為替パススルーの分析を行っている。特に、円高と円安ではそれぞれ輸入物価に与える影響が違うのではないかという視点に立ち、円高時と円安時の為替パススルーの違い(非対称為替パススルー)について掘り下げた検証を行った。さらに、現在当該学生は本論文を日本金融学会の英語版機関誌であるJapanese Journal of Monetary and Financial Economicsに投稿するべく準備を進めている。以上の通り、独自性を持った学術論文としての質の高さに加え、それを学部生ながら英語で執筆し、学会の査読付き学術誌に投稿しようとするチャレンジ精神と向上心を高く評価している。
佐 藤 有 登	商学部 4年	本稿では、2000年から2018年までの東京証券取引所1部上場企業のパネルデータを用いて、外部招聘経営者が企業パフォーマンスにどのように影響するかを分析する。企業パフォーマンスの指標として、トービンのqとROAを使用する。また、推定には、傾向スコアマッチングを用いたDID(differences-in-differences)アプローチを使用している。推定結果から、経営者が外部招聘の場合、企業価値(トービンのq)が高くなる一方、経営者の属性による違いは観察できなかった。経営者またその交代が企業パフォーマンスに与える研究は、上層部理論(upper echelon theory)など、これまでの間、継続的に議論されてきた経営学のテーマといえる。しかし、その一方で、日本企業を対象とした実証的研究は、Chang and Shim(2015, Strat Manag J)などに限られており、また、外部招聘経営者に焦点をあてた実証分析はきわめて少ない。日本企業と外国企業との間で、企業外部からの経営者の招聘の非難を考えれば、外部招聘経営者に焦点をあてた研究は、グローバル化に向けた日本企業の今後を考えるうえで有益な示唆を与えるだろう。実際の推定結果から、外部招聘経営者への交代が企業価値を高めることを示しており、外部招聘経営者に対する正の効果を示した。
加 藤 健 太 郎 千 葉 稜 弥	総合政策学部 3年	この共同研究論文では、「日本における子どもの貧困」という問題に対し、教育や家庭環境の観点からその要因を明らかにしつつ、過去の政策評価を定量的に行うことで、子どもの貧困の改善に向けた政策提言を行うものである。子どもの貧困は、全年齢における貧困問題とは異なる特性を有しており、それは貧困の世代間連鎖が起こりやすい点にある。日本ではこの子どもの相対的貧困がOECDの中でも高く、7人に1人の割合で該当すると報告されている。そのため、政府も特に2014年以降この問題の解決に取り組み、法整備や制度の充実を図る取り組みを行っている。上記研究では、東京大学社会科学研究所附属社会調査・データアーカイブ研究センターSSJデータアーカイブより「東大社研・若年パネル調査」および「同・壮年パネル調査」の個体データの提供を受け、これらを時間と手間をかけて精緻に処理し、パネルデータ分析にかけることによって、政策の効果と資産・所得・属性等の他の要因を識別している。その結果、現在行われている政策のうち「児童手当」が特に有効であることや、属性の中でも親の経済的な要因の他、「離別」や「子どもに対する親の教育期待」が子どもの貧困を左右することを明らかにした。本研究では、これまで行われていなかった子どもの貧困対策に関する政策への「定量的な評価」を行っており、学術的にも実務的にも、この点が本研究の最大の貢献部分であるといえる。その証左として、経済学の観点から社会問題を検証し、解決のための政策提言を行う2019年度「WEST論文研究発表会」において、専門家と行政官の2名による査読の結果、教育の分科会において最も優れた論文として「分科会賞」を、22大学全78篇の論文の中で上位5篇の論文が選ばれる「優秀賞」を、さらに全ての論文の中で政策提言が最も優れた論文に対して贈られる「政策提言賞」の3つを受賞した。また、同研究成果の一部を発表した総合政策学部の「リサーチ・フェスタ2019」においても「優秀賞」を受賞しており、各所で非常に高い評価を得ている。

第 25 回 船木勝馬学術奨励賞

本賞は、船木勝馬氏の篤志を尊重し、有為な人材の育成に資することを目的として、アジア諸国・地域からの留学生を対象とし、卒業論文、修士論文又は研究論文が、優秀と認められた者に授与するものです。

汪 冬	大学院法学研究科 博士課程後期課程 民事法専攻	本論文は、日本民法第719条第1項の不法行為と中国侵權責任法第8条との比較によりその中心的な要件である「共同」の意味の解明を試みるものである。かかる日中両国の比較法による解釈論の整理とそれに基づく解釈試論は、ドイツ民法のみならず日本民法からも大きな影響を受け2010年7月1日に施行された中国侵權責任法第8条の解釈論のみならず、同じくドイツ民法から多大な影響を受けて成立し、その後1970年代に公害訴訟などを契機として展開された「共同」文言の解釈論を経巡り、現在、法改正が俎上になっている日本民法第719条第1項の解釈・立法論にとっても有意義である。この意味で、本論文は、中国侵權責任法学のみならず日本の共同不法行為法学にとっても創造的価値を有するものである。本論文が日中両国の不法行為法学の発展に寄与すると思いたす所以である。
-----	-------------------------------	--

第 25 回 水野富久司スポーツ奨励賞

本賞は、水野富久司氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として陸上競技部選手の育成に資することを目的として、陸上競技部に所属する学生のうち、長距離選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

二 井 康 介	文学部 4年 (陸上競技部)	第96回東京箱根間往路大学駅伝競走の第10区において、区間6位(1時間10分18秒)の好成績を記録した。なお、この記録は、本学陸上競技部の第10区における新記録である。
---------	-------------------	--

第 23 回 瀧野秀雄学術奨励賞

本賞は、瀧野秀雄氏の篤志を尊重し、少壮気鋭の研究者の研究活動を奨励することを目的として、本学准教授、助教若しくは専任講師又は大学院に在籍する学生であって、産業や技術開発の国際化にともなう知的財産権に関する研究論文が優秀と認められた者に授与するものです。

井 坂 恵 太	理工学研究科 博士課程前期課程 精密工学専攻	成績優秀で、多数の研究成果を出した勤勉な学生である。「広域な海底探査を可能にする埋没型掘削ロボットの開発」に取り組んだ。論文「Development of underwater drilling robot based on earthworm locomotion」は有名英文学術誌「IEEE Access, Vol. 7, 2019」に掲載された。本研究に関連して「掘削推進装置(特開2019-210666)、スクリュー回転体(特開2018-188898)、スクリュー機構及び当該スクリュー機構を備えた掘削装置(特開2018-188899)」を出願している。また筆頭著者として、他3件の学術論文執筆、5件の国際学会、9件の国内学会で発表し高い評価を得ている。さらに、研究室内にとどまらず、共同研究や実地実験を積極的に行った。
小 島 明 寛	理工学研究科 博士課程後期課程 精密工学専攻	日本フルードパワーシステム学会論文「天然ゴムの伸張結晶化を用いた軸方向繊維強化型空気圧人工筋肉の長寿命化」はゴムの伸張結晶化特性を利用して、これまでの100倍となる人工筋肉の長寿命化を達成している。本手法はこれまでにない新しい手法であるため「アクチュエータ：特願2019-221070」として出願している。また、本成果は国立研究開発法人新エネルギー・産業技術開発機構(NEDO)からプレスリリースされるなど評価されている。
森 田 能 次	理工学部 応用化学科 助教	事故や災害、外科的手術により大量出血した場合、できるだけ速く輸血を行い、体内における酸素輸送機能を回復する必要がある。しかし近年、少子高齢化の進行に伴い、献血液の安定確保が難しくなっている。その解決策の一つが人工血液の開発である。本氏は、酸素輸送蛋白質であるヘモグロビンに生体適合性の高い水溶性高分子であるポリオキサソリンを結合した全く新しい人工酸素運搬体“ヘモキサソール”を世界で初めて合成し、それが赤血球代替物として機能することを明らかにした。当該技術は特許出願(出願人：中央大学、特願2019-045253)を済ませた後、研究論文として第68回高分子学会年次大会において発表された(要旨査読有)。さらに、JST・NEDOが主催するイノベーション・ジャパン2019～大学見本市&ビジネスマッチング～に採択され、産官学の参会者に対して広く展示公開された。2020年度内に一流科学雑誌への論文投稿を予定している。本成果は、深刻な“輸血液確保”の問題を解決する革新的発明であり、ヒト用及び動物用人工血液として輸血治療に大きな貢献をもたらすものと期待されている。

第 23 回 茨木龍雄学術奨励賞

本賞は、茨木龍雄氏の篤志を尊重し、都市環境学の分野における有為な人材の育成に資することを目的として、理工学部都市環境学科及び大学院理学研究科都市環境学専攻に在籍する学生であって、都市環境学に関する研究及び人物がともに優秀と認められた者に授与するものです。

町 田 果 歩	理工学研究科 博士課程前期課程 都市人間環境学専攻	本学生は成績優秀で、同級生からの信頼も厚い勤勉な学生であり、国家公務員総合試験に合格した。また、土木・都市環境同窓会の活動に積極的に関わり、就職懇談会の運営等の学内で開かれる催しの準備を率先して行う等、学科運営においても統率力を持って活躍している。修士論文では、河口湖に位置する都市域を対象に、洪水と高潮が同時生じた際の浸水状況について分析をし、都市型水害に対する減災対策についての考察をまとめ、発表会において最も優れた発表を行ったとの評価を得ている。上記のように、周りの学生の模範となるような同君の求心力・行動力や学問を追求する姿勢は見事であることから、茨木龍雄学術奨励賞の候補者として推薦する。
鎌 田 雄 大	理工学部 4年	3万件を超える個票データを用いて、データの加工・修正を行った上で、潜在クラス回帰分析を通じて、これまで日本で検討されてこなかったガソリン価格および走行単価(ガソリン価格/燃費)弾力性についての推定を行い、その結果の解釈を行っている。研究室内でもリーダーシップを発揮し、同僚先輩と協力し研究室活動を行った。大学院進学後の目標も明確であり、茨木龍雄奨励賞にふさわしいと判断した。

第 23 回 久保田昭夫・久保田紀昭女子スポーツ奨励賞

本賞は、久保田昭夫氏及び久保田紀昭氏の篤志を尊重し、スポーツ振興の支援体制の一環として女子選手の育成に資することを目的として、学友会体育連盟の部会に所属する女子学生であって、選手として優秀な成績を収めた者に授与するものです。

江 村 美 咲	法学部3年 (フェンシング部)	・第72回全日本フェンシング選手権大会/女子サーブル個人 優勝 ・第72回全日本フェンシング選手権大会/女子サーブル団体 優勝 国内最高峰の全日本選手権大会において、個人・団体ともに2連覇を果たし、優秀な成績を収めた。なお、現在、女子サーブル(シニア)ランキング1位であり、ナショナルチームのメンバーの一員である。東京オリンピック日本代表に選出される可能性があり、世界大会での活躍が期待できる。
五 島 莉 乃	経済学部4年 (女子陸上競技部)	・第30回ユニバーシアード競技大会 10000m 2位 ・第37回全日本大学女子駅伝対校選手権大会 第1区 区間1位 大学生のオリンピックと言われるユニバーシアード競技大会において、2位の好成績を収めた。また、大学駅伝(女子部門)の最高峰である、全日本大学女子駅伝において、第1区を力走り、区間1位の好タイムを記録した。今後、日本女子長距離界でトップクラスの活躍が期待できる。

第 66 回 学員体育会賞

本賞は、体育の業績において優秀な成績を挙げた本学の学生、団体に対し授与するものです。

【優秀団体賞】

フェンシング部 (男子)	2019年度全日本学生フェンシング選手権大会	男子サーブル団体戦優勝 (3連覇)
フェンシング部 (女子)	第72回全日本フェンシング選手権大会	女子サーブル団体戦優勝 (2連覇)
剣道部	第67回全日本学生剣道優勝大会	優勝 (2連覇14回目)
ボート部	全日本大学選手権大会 男子エイト	優勝 (14年ぶり)
自転車競技部	全日本大学対抗選手権自転車競技大会	総合優勝 (創部66年来の初優勝)
軟式野球部	全日本学生軟式野球選手権大会	優勝 (3年ぶり3回目)

【優秀団体部門賞】

自動車部	2019年度全日本学生ジムカーナ選手権大会	男子団体の部 優勝
------	-----------------------	-----------

【努力団体賞】

硬式野球部	令和元年度東都大学野球秋季リーグ戦	優勝 (15年ぶり)
相撲部	第98回東日本学生相撲選手権 団体戦	優勝
準硬式野球部	令和元年度東都大学秋季リーグ戦	優勝
弓道部 (女子)	第49回全関東学生弓道選手権大会	団体優勝
拳法部	日本拳法第32回全国選抜選手権大会	優勝 (2年ぶり)
拳法部 (女子)	日本拳法第13回東日本大学選手権大会	優勝

【リレー賞】

陸上競技部	第103回日本陸上競技選手権リレー競技大会	4×100m優勝 (2年ぶり) 室谷翔太郎 (経4), 宮城辰郎 (理4), 天城陽太 (文2), 大久保公彦 (文2)
自転車競技部	文部科学大臣杯第75回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子チームスプリント優勝 梶原大地 (商4), 山根将太 (商4), 東矢圭吾 (法3) ※59秒411 18年ぶりに日本新記録樹立
自転車競技部	文部科学大臣杯第75回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子チームパーシュート優勝 橋本陸 (商4), 山本哲史 (経2), 青木瑞樹 (商2), 今村駿介 (法4)

【優秀選手賞】

染 谷 佳 大	法学部 3年 (陸上競技部)	第30回ユニバーシアード競技大会	4×100mリレー優勝
大 本 里 佳	法学部 4年 (水泳部)	第18回世界選手権 第95回日本学生選手権水泳競技大会	200m個人メドレー5位 50m自由形優勝
長 野 凌 生	文学部 4年 (水泳部)	2019年日本パラ水泳選手権大会	2種目優勝
川 根 正 大	法学部 2年 (水泳部)	第30回ユニバーシアード競技大会 第95回日本学生選手権水泳競技大会	4×100mリレー4位 4×100mメドレーリレー4位 50m自由形優勝
梅 本 鈴 太 郎	法学部 3年 (バレーボール部)	第30回ユニバーシアード競技大会	5位
岩 田 優 奈	法学部 4年 (女子陸上競技部)	天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対抗選手権大会	400m優勝
五 島 莉 乃	経済学部 4年 (女子陸上競技部)	第30回ユニバーシアード10000m 第37回全日本女子駅伝対校選手権大会	2位 1区区间賞
瀬 山 咲 希	文学部 4年 (女子卓球部)	第30回ユニバーシアード	女子団体2位
渡 邊 裕 斗	商学部 4年 (フェンシング部)	第30回ユニバーシアード男子サーブル 2019年度全日本学生フェンシング選手権大会	団体8位 男子サーブル個人戦優勝
永 野 雄 大	法学部 3年 (フェンシング部)	第30回ユニバーシアード男子フルーレ 第72回全日本フェンシング選手権大会・個人戦	団体5位 男子フルーレ優勝
上 野 優 斗	法学部 2年 (フェンシング部)	第30回ユニバーシアード男子フルーレ	団体5位
江 村 美 咲	法学部 3年 (フェンシング部)	第72回全日本フェンシング選手権大会・個人戦	女子サーブル優勝 (2連覇)
原 勇 輝	法学部 4年 (重量挙げ部)	第65回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会 第65回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権大会	81kg級優勝 81kg級優勝
今 村 駿 介	法学部 4年 (自転車競技部)	2019全日本自転車競技選手権 第60回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	チームパーシュート優勝 ポイントレース優勝
佐 々 木 淳	経済学部 4年 (ラクロス部)	第9回アジアバシフィック大会	優勝
小 松 勇 斗	商学部 3年 (ラクロス部)	第9回アジアバシフィック大会	優勝

【体育賞】

時 任 飛 鳥	経済学部 4年 (重量挙部)	第65回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権大会	61kg級優勝
森 田 彩 音	法学部 4年 (女子卓球部)	第86回全日本大学総合卓球選手権大会女子シングルス	優勝
河 野 赳 赳	理工学部 3年 (軟式野球部)	全日本学生軟式野球選手権大会	最高殊勲選手賞
山 根 将 太	商学部 4年 (自転車競技部)	文部科学大臣杯第75回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子1kmタイムトライアル優勝 ※1分01秒390 学連新記録樹立 男子スプリント優勝 ※予選において9秒892の学連新記録樹立
山 本 哲 央	経済学部 2年 (自転車競技部)	文部科学大臣杯第75回全日本大学対抗選手権自転車競技大会	男子4kmインディヴィデュアルパーシュート優勝

【努力賞】

牧 秀 悟	商学部 4年 (硬式野球部)	令和元年度東都大学秋季リーグ戦	最優秀選手賞
田 中 大 介	文学部 4年 (相撲部)	第98回東日本相撲選手権大会個人戦	優勝
端 岡 陸	法学部 4年 (準硬式野球部)	令和元年度東都大学野球秋季リーグ戦	最優秀選手賞
水 上 真 理	法学部 2年 (女子陸上競技部)	関東学生陸上競技対校選手権大会	棒高跳び優勝
東 矢 圭 吾	法学部 3年 (自転車競技部)	第60回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	タンデムスプリント優勝 ケイリン優勝
保 田 浩 輔	商学部 2年 (自転車競技部)	第60回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	タンデムスプリント優勝
三 品 美 月	法学部 2年 (射撃部)	日本学生選抜スポーツ射撃競技大会	10mS60Wエアライフル優勝

【学長賞】

染 谷 佳 大	法学部 3年 (陸上競技部)	渡 邊 裕 斗	商学部 4年 (フェンシング部)
大 本 里 佳	法学部 4年 (水泳部)	永 野 雄 大	法学部 3年 (フェンシング部)
長 野 凌 生	文学部 4年 (水泳部)	上 野 優 斗	法学部 2年 (フェンシング部)
川 根 正 大	法学部 2年 (水泳部)	江 村 美 咲	法学部 3年 (フェンシング部)
梅 本 鈴 太 郎	法学部 3年 (バレーボール部)	原 勇 輝	法学部 4年 (重量挙部)
岩 田 優 奈	法学部 4年 (女子陸上競技部)	今 村 駿 介	法学部 4年 (自転車競技部)
五 島 莉 乃	経済学部 4年 (女子陸上競技部)	佐 々 木 淳	経済学部 4年 (ラクロス部)
瀬 山 咲 希	文学部 4年 (女子卓球部)	小 松 勇 斗	商学部 3年 (ラクロス部)

【優秀監督賞】

富 田 隆	フェンシング部
北 原 修	剣道部
溝 口 健 太	ボート部
高 島 豪	自転車競技部
岩 下 誠 司	軟式野球部

【永年監督賞】

砂 田 利 美	水泳部 (水球)
---------	----------

第 37 回 学員会会長賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて特に優秀な成果を収めた者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野】

浮 須 俊 樹	法学部2年	外務省は、大学生を対象とする「第35回国際問題プレゼンテーション・コンテスト」を開催した。令和初となる今回は、「私の提言 外国人の受入れと共生社会の実現のために」をテーマとして、今回は、21組 (29名) の応募があり、事前審査を経て10組 (17名) のファイナリストが本選に進出した。当日の発表は、発表者の希望を踏まえつつ厳正な抽選を経て決定された順番で行われ、多様な観点やアイデアが披露され、浮須さんらのチームが「優秀賞 (準優勝)」を勝ち取った。
及 川 奏	法学部2年	チームとしてのテーマを「第二の故郷プロジェクトと生活総合支援アプリの活用」として、「第35回国際問題プレゼンテーション・コンテスト」に応募し、21組の中から見事「外務大臣賞 (優勝)」に輝いた。審査員からも「実際に群馬県や千葉県、長野県などがベトナム政府と人材受入れの覚書を締結しているが、それを更に一歩進めて、地方レベルでつながりをつくっていくという提案は、大きな可能性を秘めている。」との評価を頂いている。
FLPフォーラムプログラム 松野良一ゼミ	法学部	ゼミ活動で制作したドキュメンタリー「『九死一生』-元台湾人日本兵の記憶-」と「ハンセン病を生きて」が「地方の時代」映像祭 (NHK、民放連など主催) で奨励賞を受賞し、高い評価を受けた。
江川 晃 ゼミ 「チームトト」・ 歳川 幹 大	経済学部	人手不足が深刻化する農業では外国人労働力の受け入れが進んでいるものの、賃金をはじめとする労働環境に問題がみられる。こうした問題の解決を図るには、現場での適正な労務管理が必要となることから、本研究では技能実習制度を対象に、外国人に対する労務管理のあり方を検討した。その結果、採用時の監理団体の選定や教育面での言語への配慮、実習期間終了後のフォローアップ等が重要であることを明らかにした。
和田 光平ゼミ チーム：MEER 猫	経済学部	チームMEER猫は、上京予定の新入生が、時間的にも物理的にも満足に賃貸物件を決めづらいという現状に着目し、卒業で退去予定の4年生とネット上で物件の内見や情報共有を通じてマッチングする事業を提案し、非常に高く評価され、中央大学野島記念Business Contest2019において準優勝を受賞した。
山 鹿 汐 音	理工学部4年	卒業研究において、光格子 (レーザーの干渉で作る原子に対する周期ポテンシャル) 中のスピン自由度を持つボース粒子系の理論的な解析に取り組み、超流動状態のこれまで知られていない幾つかの性質を明らかにした。特に、超流動相とモット絶縁体相間の転移が1次転移のとき、超流動臨界速度が相転移点において有限になることや、準安定なモット絶縁体相が存在する場合にはスピン流に対する不安定性が生じることなどを明らかにした。これらの発見は超流動のみならず、超伝導の微視的な理解に重要な意味を持つと考えられる。
黒 崎 友 美	文学部3年	2019年12月1日に行われた「マレー語スピーチコンテスト2019」(主催 公益社団法人日本マレーシア協会) (於 国際機関日本アセアンセンター) の大学生の部において、「多文化社会」について5分のスピーチを行い、優勝を果たした。本学学生とのスピーチコンテスト優勝は初めての快挙であり、素晴らしい成果と言える。審査員との間でマレー語による質疑応答を流暢にこなすなど、特殊言語であるマレー語を短期間で習得したことは、特筆に値する。
北 夏 苗	文学部3年	野村総合研究所グループ主催の第14回NRI学生小論文コンテスト2019 (テーマ「サステナブル未来予想図〜豊かで活力ある未来のために〜」) において、応募論文数84点中、「世界が認める持続可能な観光地」というタイトルの論文において上位8点 (応募総数84点) に選ばれ、敢闘賞を受賞した。大賞1点、優秀賞1点、特別審査委員賞3点、敢闘賞・奨励賞5点となっており、中央大学からは唯一の受賞となった。
内 田 彪	国際経営学部1年	誰もが経験したことのあるトイレの嫌な思いと、2020年4月から第5世代移動通信システムが日本に導入される機会を合わせて、新たな広告収入を軸としたアプリを通じて、無料トイレの空き情報を提供する事業を提案し、非常に高く評価され、中央大学野島記念Business Contest2019において優勝を受賞した。

【スポーツの分野 (個人)】

染 谷 佳 大	法学部 3年 (陸上競技部)	第30回ユニバーシアード競技大会	4×100mリレー優勝
大 本 里 佳	法学部 4年 (水泳部)	第18回世界選手権 第95回日本学生選手権水泳競技大会	200m個人メドレー5位 50m自由形優勝
長 野 凌 生	文学部 4年 (水泳部)	2019年日本パラ水泳選手権大会	2種目優勝
川 根 正 大	法学部 2年 (水泳部)	第30回ユニバーシアード競技大会 第95回日本学生選手権水泳競技大会	4×100mリレー 4位 4×100mメドレーリレー4位 50m自由形優勝
梅 本 鈴 太 郎	法学部 3年 (バレーボール部)	第30回ユニバーシアード競技大会	5位
岩 田 優 奈	法学部 4年 (女子陸上競技部)	天皇賜盃第88回日本学生陸上競技対抗選手権大会	400m優勝
五 島 莉 乃	経済学部 4年 (女子陸上競技部)	第30回ユニバーシアード10000m 第37回全日本女子駅伝対校選手権大会	2位 1区区間賞
瀬 山 咲 希	文学部 4年 (女子卓球部)	第30回ユニバーシアード	女子団体2位
渡 邊 裕 斗	商学部 4年 (フェンシング部)	第30回ユニバーシアード男子サーブル 2019年度全日本学生フェンシング選手権大会	団体8位 男子サーブル個人戦優勝
永 野 雄 大	法学部 3年 (フェンシング部)	第30回ユニバーシアード男子フルーレ 第72回全日本フェンシング選手権大会・個人戦	団体5位 男子フルーレ優勝
上 野 優 斗	法学部 2年 (フェンシング部)	第30回ユニバーシアード男子フルーレ	団体5位
江 村 美 咲	法学部 3年 (フェンシング部)	第72回全日本フェンシング選手権大会・個人戦	女子サーブル優勝 (2連覇)
原 勇 輝	法学部 4年 (重量挙げ部)	第65回全日本学生ウエイトリフティング個人選手権 第65回全日本大学対抗ウエイトリフティング選手権	大会81kg級優勝 大会81kg級優勝
今 村 駿 介	法学部 4年 (自転車競技部)	2019全日本自転車競技選手権 第60回全日本学生選手権トラック自転車競技大会	チームパーシユート優勝 ポイントレース優勝
佐 々 木 淳	経済学部 4年 (ラクロス部)	第9回アジアパシフィック大会	優勝
小 松 勇 斗	商学部 3年 (ラクロス部)	第9回アジアパシフィック大会	優勝

【スポーツの分野（団体）】

フェンシング部（男子）	2019年度全日本学生フェンシング選手権大会 男子サーブル団体戦優勝（3連覇）
フェンシング部（女子）	第72回全日本フェンシング選手権大会 女子サーブル団体戦優勝（2連覇）
剣道部	第67回全日本学生剣道優勝大会 優勝（2連覇14回目）
ボート部	全日本大学選手権大会 男子エイト 優勝（14年ぶり）
自転車競技部	全日本大学対抗選手権自転車競技大会 総合優勝（創部66年来の初優勝）
軟式野球部	全日本学生軟式野球選手権大会 優勝（3年ぶり3回目）

【スポーツの分野（OB）】

塩 浦 慎 理	水泳部OB	第18回世界水泳選手権	50m自由形8位
坂 井 孝 士 郎	水泳部OB	第30回ユニバーシアード競技大会	4×100mリレー4位
長 谷 川 慎	ラグビー部OB	ラグビーワールドカップ2019	Best8スクラムコーチ
丸 中 大 明	ソフトテニス部OB	第16回世界選手権大会	団体優勝
鈴 木 琢 巳	ソフトテニス部OB	第16回世界選手権大会	団体優勝
岡 澤 セ オ ン 鹿 児 島 県 体 育 協 会	ボクシング部OB	第89回全日本ボクシング選手権 2019東京プレ五輪「READY STEADY TOKYO」 2019AIBA世界選手権大会 2019アジア選手権大会	ウェルター級優勝 最優秀選手賞 ウェルター級（69Kg）優勝（東京） ウェルター級（69Kg）ベスト8（ロシア） ウェルター級（69Kg）銀メダル（タイ）
室 屋 義 秀 レ ッ ド ブ ル エ ア レ ー ス	航空部OB	第1戦 U A E アブダビ大会 第2戦 ロシ ア カザン大会 第4戦 日 本 千 葉 大 会 年間総合	優勝 優勝 優勝 第2位
林 靖 晴 東 日 本 電 信 電 話 株 式 有 限 公 司	ボート部OB	第97回全日本選手権大会 第59回オックスフォード盾レガッタ エイト	男子エイト 優勝（4連覇） 男子エイト優勝 5分38秒20 日本最高タイム樹立
高 野 勇 太 東 日 本 電 信 電 話 株 式 有 限 公 司	ボート部OB	第97回全日本選手権大会 第59回オックスフォード盾レガッタ エイト	男子エイト 優勝（4連覇） 男子エイト優勝 5分38秒20 日本最高タイム樹立
宮 浦 真 之 東 日 本 電 信 電 話 株 式 有 限 公 司	ボート部OB	第97回全日本選手権大会 第59回オックスフォード盾レガッタ エイト	男子エイト 優勝（4連覇） 男子エイト優勝 5分38秒20 日本最高タイム樹立
山 下 敏 和 自 衛 隊 体 育 学 校	射撃部OB	2019年度全日本選抜ライフル射撃競技大会	50m3 P 120M優勝 50m P 60M優勝
清 水 綾 乃 自 衛 隊 体 育 学 校	射撃部OG	2019年度全日本選抜ライフル射撃競技大会	50m P 60W優勝
佐 古 賢 一	バスケットボール部OB	FIBAワールドカップ中国大会2019	日本代表チームアシスタントコーチ
柿 木 孝 之	自転車競技部OB	2019 U C I ロード世界選手権大会	日本代表コーチ

第 4 回 学 員 会 会 長 奨 励 賞

本賞は、在学生の士気の高揚を図り、本学の発展に寄与することを目的として、本学在学生のうち学術、文化、社会等の活動を通じて優秀な成果を収めた者に授与する学員会会長賞に準ずる者に授与するものです。

【学術・文化・社会の分野】

向 山 碧 杜	法学部 4年	大学1年次より、東北での被災地支援活動を3年間継続しながら、足元の多摩キャンパス周辺や学内においての防災活動も積極的に展開している。「チーム防災」では、副代表として代表を支え、独自の防災ワークショップを学生間で企画・開発し、特に「防災百人一首」は、メディアにも取り上げられ大きな反響があった。4年次には、ボランティアセンター公認学生団体のリーダーの立場として、シンポジウムやイベントを企画し、後輩たちの見本となっている。
荒 井 俊 哉	法学部 4年	白門祭実行委員会の広報部に所属しながら大学周辺地域の方々と連携し、新たなプロジェクトである「白門マルシェ」を3年次に企画・実行した。学園祭の出店団体の中でもトップクラスの売り上げをあげ、2019年度にはオリジナル商品を日野市の和菓子屋さんと協働開発し、大きな話題となった。このように、持ち前の行動力で周囲を巻き込んで率先する力は特筆すべきである。
中 村 美 希	法学部 4年	大学1年次より「住民主体の地域づくり」の拠点のひとつである、東京都日野市落川地区に通い、平時防災のための炊き出し訓練や顔の見える関係性作りにも携わった。毎月1回行われる地域の会議に加え、毎月1～2回開かれる地域の拠点づくりに学生代表として通いながら、初めて訪れる多くの学生を案内する立場として、積極的に地域活動に関わった。また、住民や行政職員とともに話し合う場において、「学生」の視点で意見を伝える場も多くあり、地域と学生がかかわる場の発信に貢献している。
梅 原 紅 音	法学部 4年	1年次より「グリーンパード中央大学チーム」に加わり、2年次からこれまで代表として団体を支え、活動を広く展開している。特に、日野市・多摩市においては、毎月主要駅においてのゴミ拾い活動を実施し、行政や地域の方々と協力しながら、新たな活動を展開している。ゴミ拾いという活動を通じて、社会課題を解決し、多くの仲間を加え、地域を巻き込みながら活動を継続している。

中山 健 太	法学部 4年	FLPのサマースクールで訪問した北海道羅臼町におけるナショナルトラスト運動にヒントを得て、「インバウンド、ナショナルトラスト、ルレ・エ・シャトー―究極のリゾート―」の論文をFLPのC生(4年生)の5名で作成し、地球の歩き方創刊40周年記念企画地球の歩き方総合研究所第1回「懸賞論文」に応募したところ、奨励賞を受賞した。
井村ゼミナール	経済学部	2019年度の経済学部井村ゼミナールは、2年次、3年次、および4年次の学生が参加し、山田、濱田、荒川、河村、篠原、および渡邊の6名が直接の論文執筆チームを構成し、それに4年生の富澤、馬の2名が常時議論に加わり、2019年12月20日、21日、国立オリンピック記念青少年総合センターで開催された全日本証券研究学生連盟主催「日本証券業協会の証券ゼミナール大会(全国大会、約30大学、約700名参加)」の第6テーマ第2ブロック「増大する企業の内部留保と証券市場」(5大学5ゼミナール)に論文を提出して、発表し、2日間にわたる論戦を行った結果、優秀賞を受賞した。
坂本 佳 紀	理工学部 4年	昨年度GPAが3.71(通算GPA3.55)と、極めて優秀な成績を修めた。卒業後は本学大学院への推薦入学が決定している。卒業研究においては、統計的機械学習に関する書籍、並びに深層学習に関する書籍を的確に理解して読み進め、他の学生の模範になっている。9月には学部生ながら、日本計算機統計学会若手セミナーに参加し、深層学習を用いた画像解析の研究動向に関する発表を行なった。さらに、セミナー内の活動としてグループでデータ解析コンペティションに出場中であり、メンバーを主導して分析を進めている。今後のさらなる活躍が大いに期待される。
瀧澤 健 太	理工学部 4年	中央大学大学院に進学予定のM0生として、大学院で行う予定の研究テーマに向けて、積極的な勉強と研究を日々行っている。上記のテーマ1については、ほぼ独力で分析、発表を行い、すでに興味をもつ外部企業からの問合せも受けている。テーマ2は、大学院進学後に行う予定の研究テーマである。基本的な運動モデルはすでに存在するが、分析過程に現れる9つのパラメータの設定を改良しながら分析を行っている。さらに、パラメータの数を減らして、より単純な方法で分析を行うことを目指している。瀧澤君は、ほぼ毎日研究室に現れて、自主的に研究を進めている。十分推薦に値すると考える。
荒川 友 里	理工学部 4年	理工学部の都市環境学科において、常にトップのGPAを維持し、積極的な学習態度で学年をリードしてきた。所属研究室でも意欲的に活動し、安全工学や失敗学を深く学ぶとともに、進路先である鉄道業界における事故の対策に、これらの視点を活用するべく、自ら困難な研究テーマを設定して取り組んだ。多様な事故事例に当ることは多くの労苦を伴っているが、それを克服し着実に独創的な成果をあげつつある。
清水 周 作 / 藤 匠	理工学部 4年	設計コンテスト2019にて二位を受賞した。このコンテストはコンセプト造りから始め、設計仕様にも重点を置いた身近な外装ユニットを、JEITAが規定した普通幾何公差を活用して三次元CADで設計した。清水君および藤君は、新しい三次元製品情報付加規格の妥当性の検証および普及に貢献し、今後の設計分野の活躍が期待され、中央大学の名声向上にも大きく貢献した。
倉本 拓 実	理工学部 4年	集積回路設計の分野における重要な未解決問題として知られる「非線形回路のすべての特性曲線を求める問題」に対し、整数計画法を用いた効率的かつ実用的な「すべての特性曲線を求める方法」を提案した。またその成果をまとめた論文をIEEE(米国電気電子学会)の権威ある国際会議APCCAS(回路とシステムに関するアジア太平洋国際会議)とNCN(非線形回路ネットワークに関する国際会議)にファーストオーサーで投稿し、高い評価で採稿し、当該国際会議で口頭発表された。学部4年生が12月の時点でIEEEの国際会議で(指導教授だけを連名とする論文を)2回発表するというのは異例なことであり、高く評価される。また中央大学のレベルの高さを世界に周知したことも高く評価される。
合田 佳 弘	理工学部 4年	学業成績が極めて優良で、また、卒業研究の研究内容が卓越している。バブアニューギニア産海綿より単離された希少マクロリド天然物エングマゾールBは、急性骨髄性白血病や消化管間質腫瘍の治療薬シーズとして期待されている。本候補者はエングマゾールBの化学合成法開発に向け、金触媒を用いたアルキンの分子内ヒドロアルコキシ化を用いることで、本天然物のジヒドロピラン環部を高収率で合成できることを見出した。本研究成果は日本化学会第100春季年会にて口頭発表する予定である。
北嶋 弓 月	理工学部 4年	「ファッションブランドのSNSを用いた活用方法の類型化」というタイトルでの研究成果報告を行った。本研究は、日本で広く知られているファッションブランドについて、提供されたアンケート調査データとブランドに関するウェブ上のデータを融合させ、ブランド間の競合関係を明らかにした。本研究は日本有数の分析ツールベンダーである(株)NTTデータ数理システム主催の学生対象の奨励賞において優秀賞を受賞している。
前川 美 里	理工学部 4年	4年間の理工学部情報工学科在籍期間を通じて成績優秀であり、かつ、学業の集大成である卒業論文研究において、水産高等学校生徒用教材としてのマグロ解体の手順と安全性をバーチャルリアリティ環境下で習得するシステムを構築するという意欲的な研究を推進した。大学院進学後にはさらなる研究の発展や国際会議での論文発表等が期待される。
宇津木 春 菜	理工学部 4年	2016年、理工学部に国際交流を目的とした初のサークル「中央大学理工国際サークル白風」を設立した。ときに本学国際センターとも連携しながら、留学生及び邦人学生間のみならず、学内外との多様な国際交流を展開する基礎を築いた。また、クローアアでの1年間をはじめとする、3回の長短期留学、教職課程の履修など、大学の長所を最大限に利用して自己実現に向かおうとする真摯な姿勢と、高い社会的理想を兼ね備えた人間性とをもって周囲に好影響を与えている。
橋本 珠 緒	理工学部 4年	平素の学業、演習、卒業研究に真面目に取り組み、学業は学年でトップという評価を受け、演習・実習系の科目においてもグループ内で積極的な役割を果たしてきた。また、卒業研究についても「ADHD児の脳機能と遺伝子の関連」に関わる研究を実施しており高い成果を上げており、さらなる研究を行うため大学院への進学を決めている。
石風 垣 桃一 本 祥 一 久 松 美 南 石 塚 美 莉 駒 村 日 向 子	文学部 3年 文学部 3年 法学部 3年 法学部 4年 法学部 4年	2019年度中央大学ハラスメント防止啓発×ダイバーシティ・ウィークにおいて、中央大学のダイバーシティ推進のために学生の目線で魅力的な企画をダイバーシティ推進委員(教員)に提案し、学部を越えた主体的な運営や広報活動への協力によってダイバーシティセンター設立準備期間のイベントに対する全学の関心を高め、来場者数の増加とイベントの成功に貢献した。このように主体的で協同的な学びを、中大のダイバーシティ・ウィークを盛り上げ、イベントの成功につなげた学生たちは、「行動する知性」の模範であると思われる。
藤野 海 智	文学部 2年	本学「夏期短期留学(シェフィールド大学)」制度を利用して、英語検定試験(TOEIC)のスコアを飛躍的に上昇させた。また、英文専攻主催の「留学帰国報告会」(2019年10月24日実施)において、通常の短期留学報告を越える充実した発表が参加者に強い印象を与えた。さらに、学業全般に意欲的に取り組み、第二外国語として1年次より学び始めた中国語の能力面でも成果を上げ、2018年11月にHSK2級にほぼ満点で合格、その後、湖南省張家界市武陵源や台湾等へ一人で出かけ、中国語や英語を実践で活用している。
高橋 侑 希	文学部 3年	2年次にGPA4.0を取得するなど非常に優秀な成績を収めている。2年生の時からハワイ大学マノア校・東京大学との学生会(ハワイ大学マノア校で実施)に出席し、数量詞の作用域の習得について素晴らしい発表(大学院生との共同発表)をしている。また、3年時から大学院の授業にも積極的に出席し、ゼミでの研究をもとに中央大学で行ったタマサート大学・マレーシア工科大学・香港城市大学との応用言語学学生会で難易構文の習得について発表するとともに、その運営においても中心的な役割を果たした。
日高 あ き ら	文学部 4年	ボランティアセンター公認団体「はまぎくのつぼみ」に1年次から所属し、2年次から中心メンバーとして、震災後の岩手県宮古市のコミュニティ支援活動に従事している。得意の和太鼓演奏は、宮古の人たちから大変好評であり、活動の成果は、読売新聞や岩手日報等で報道され、中央大学のブランド力アップにも多大な貢献を果たした。また卒業論文「社会的多様性の再考―フェミニズム・ジェンダー論的視点から―」では、従来のフェミニズム論、ジェンダー論の問題点を丁寧に指摘し、社会的多様性の再考という観点から、独自の考察を展開し、卒業論文として出色の出来と云える。
稲見 咲 希	国際情報学部 1年	国際情報学部在籍する被推薦者は、中央大学理工学部データサイエンス・AIクラスター主催の「データ分析フェスティバル」において、同学部の学生とチームで出場し、優秀かつユニークなデータ分析とこれに基づく発表を行い、「アイデア賞」を受賞した。また、大学卒業程度の知識が求められる基本情報技術者試験に合格を果たした。積極性が求められる1期生の中でも、学修に向けての意欲は卓越したものがあり、今後の学修成果にも大きな期待が寄せられるとともに、国際情報学部を牽引する存在としての飛躍が期待される。

第 21 回 法曹会賞

本賞は、中央大学法曹会が、毎年卒業する学生のうち、学業成績優秀または文化活動に顕著な功績を挙げた卒業生に対して授与するものです。

池ノ谷泰周	法学部 4年	在学4年次に平成31年度司法試験合格
剛力大	法学部 4年	在学4年次に平成31年度司法試験合格
高橋玲哉	法学部 4年	在学4年次に平成31年度司法試験合格
寺西祐貴	法学部 4年	在学4年次に平成31年度司法試験合格
山下もも子	法学部 4年	在学4年次に平成31年度司法試験合格

第 34 回 南甲倶楽部賞

本賞は学員会南甲倶楽部が、毎年卒業する学生のうち、学力優秀にて学問研究、文化活動、体育活動及び社会活動などの分野において顕著な成果を挙げ、本学の名声を高めると共に本学の発展に寄与した者を対象に授与するものです。(南甲倶楽部は実業界で活躍するOBが組織する団体)

喜屋武明莉	法学部 4年	法学部卒業生の中で、在学中の学業成績が優秀でありかつ所属ゼミでの活躍も顕著で、指導教員及びゼミ生からの信頼も厚い。
平尾菜優	経済学部 4年	学長・学部長賞奨学金制度における学部長賞奨学生に3年連続して採用されており、学業成績が極めて優秀である。また、ゼミ活動においても積極的に活動しており、学業に取り組む姿勢は、学生の模範となるに相応しく、南甲倶楽部賞受賞候補者として適格であると判断し、ここに推薦する。
石橋滋	商学部 4年	本年度商学部卒業生の中で学業成績が優秀であり、難関とされる公認会計士試験に在学中に見事合格した。
上野舞夕	理工学部 3年	経営システム工学科に入学してからの3年間を通じて熱心に勉学に励んでおり、学業成績は学年の中でもトップを維持している。また、女子学生を応援するための産学連携教育プログラム(WISE)の活動にも積極的に参加し、全ての科目を履修しているだけでなく、WISE学生部の活動にも積極的に取り組み、リケジョ実験教育や学生相談会などの企画でも尽力してくれている。WISEの取り組みはダイバーシティの促進という観点から本学にとって重要なものであり、上野さんら女子学生の主体的な関与は感謝すべきことである。現在は大学院進学を目指して情報収集や勉強も始めている。将来、理工系出身の女性として社会で活躍してくれるであろうと期待される。以上の理由から、当学科の南甲倶楽部賞受賞候補者として推薦する。
池田奈美	文学部 4年	真面目に勉学に励み、優秀な成績をおさめている。卒業論文「現代日本語における「がすぎる」構文の研究」は、「かわいすぎる」「わかりみがすぎる」のような新しく生成された日本語の構文に関する研究である。これらの表現が実現する言語環境を精査し、SNS上で新たな日本語のコミュニケーションの空間が形成され、話し手の心理的文脈がダイレクトに表出されることに起因することを明らかにした。ネット社会における日本語の本質的な変化を記述したすぐれた研究であり、本論文は中央大学国文学会『白門国文』37号に掲載される。ユニークな着眼点と堅実な調査を遂行する勤勉な資質は、将来有意なる人材たるものと確信いたし、推薦する。
戸井田七海	総合政策学部 4年	総合政策学部で2年次の専門演習、3-4年次の事例研究を履修し、中川恭明ゼミ(言語・文化科学)に3年連続で所属した。その間、当初より関心のあった現代ドイツの社会問題に取り組むため、学部の2週間に渡るデュッセルドルフでのドイツ語文化研修旅行に参加することによりドイツ語力向上と文化理解に努めた。また、ドイツ語契約講師による戦後のドイツ社会が抱える諸問題をテーマとする特殊講義を履修した後、それまでの学修を実際に経験によって確認し充実させるために、中央大学交換留学生としてドイツ、デュッセルドルフ大学で約1年ドイツの言語政策・文化政策を学んだ。こうした主体的な計画に基づく意欲的な勉学の成果は、ドイツ語技能検定準1級、DSH2(ドイツの大学入学のためのドイツ語試験の三つあるレベルの中の二つ目)に如実にあらわれていると言える。4年次の卒業論文「非ドイツ語母語話者の受入に関する言語政策を手本とする非日本語母語話者への日本語教育の提言」において、移民背景を持つ人口が約25%を占めるドイツでの公的社会的プログラムとしての言語学習制度を研究し、今後日本が共生社会を目指すに当たり、外国人が日本に受け入れられるような文化的環境と法体制を整備するとともに、具体性のある施策が実行しやすい社会を私たち日本人とともに実現させていくことが必要であるとの提言を行った。戸井田七海は、中央大学の学生として、真摯に勉学に取り組み、確実に成果を挙げた、優秀な学生であると確信する。よって、南甲倶楽部賞に推薦する次第である。

第 15 回 東京白門ライオンズクラブ学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、有為な人材の育成に資することを目的として、博士課程前期課程・修士課程に在学する外国人留学生のうち、優秀な成績をもって課程を修了し、かつわが国と出身国を結ぶ架け橋として活躍が囑望される者に授与するものです。

許可婧	大学院経済学研究科 博士課程前期課程 経済学専攻	中国における中小企業と銀行の取引関係をテーマに研究し、学術的な意義のみならず、政策的にも有意義な示唆に富んだ成果を得た。温厚篤実な人柄で日中友好の架け橋となることが期待される人材である。
-----	--------------------------------	---

第 6 回 東京白門ライオンズクラブ法務研究科学術奨励賞

本賞は、東京白門ライオンズクラブが、将来法曹として活躍が期待される人材の育成に資することを目的として、社会実務等の経験を有して法務研究科に入学し、在学中の業績が顕著と認められた学生に授与するものです。

新沼史織	専門職大学院 法務研究科 法務専攻	社会人経験者で本研究科に入学し、熱心に科目を受講し、その学習姿勢は他の学生にもよい刺激を与えている。法曹となった後の設計図も明確で、有為な人材である。
------	-------------------------	---